〔資　料〕

弾誓・澄禅・常宇資料(4)

関口静雄

〔解　題〕

木食上人弾誓の行実を伝える絵伝を二種紹介する。長野県飯田市円山町所在佛性山阿弥陀寺蔵の紙本着色掛幅絵伝『弾誓上人絵詞伝』一幅と、東京都江戸川区所在宮島コレクション蔵の『弾誓上人白描絵巻』二巻である。掲載を御許可下さり、種々御親切を賜った佛性山阿弥陀寺住職宮澤徹成師と宮島コレクション主人に深甚の謝意を表します。

佛性山阿弥陀寺は東京都港区芝の三縁山増上寺を本山と仰ぐ浄土宗寺院で、木食弾誓の開山と伝える。当寺が弾誓開山寺院であることは洛北古知谷の光明山阿弥陀寺十世信阿宅亮撰『弾誓上人絵詞伝』（明和四年〈一七八七〉十月刊）に記されているが、当寺所蔵弾誓関係資料のうち、五世忍誉詠西が宝永三年（一七〇六）初夏に書写した『相州足柄下郡塔峯育王山阿弥陀寺開基弾誓道者験記』（写一巻）の一節には以下のようにある。（校訂して示す）

其後、彼山ヲ出テ、信濃國歯藏山ニ入。四阿屋山ニ籠リ、自夫レ二科・松本・諏訪・下原ニヲイテ大ニ化導御坐在、或人ハ夢ニ佛之形ニ拜シ、又或人ハ菩薩之形ト見ル故、道俗奇異之思ヲナシ、遠近草之ノヱフスカ如シ。故ニ同國伊奈郡飯田之太守ニ小笠原兵部太夫殿御内室、此聖ニ逢玉ハンコヲ深ク御願マシマシ、則以使者請待被遊玉フ。于時慶長二年酉ノ卯月、始ニ飯田ニ至リ、則御城之西十六七町ヲ去テ風越山之麓、上飯田村内尻無之澤ト云處ニ佛性山阿彌陁寺號シテ一宇ノ草堂ヲ結ヒ、居ヲト、化ヲ振ヒ玉フ。

右によれば、佐渡修行を終えて信州諏訪湖周辺を巡錫していた弾誓が飯田藩主小笠原秀政（一五六九―一六一五）とその内室（徳川家康の孫で嫡男信康の娘登久姫）の招請を容れて慶長二年（一五九七）四月に飯田に来錫し、風越山麓上飯田村尻無沢に佛性山阿弥陀寺を開山したと伝える。しかし当寺蔵『信州飯田記』（写一冊）によると、秀政の飯田藩知行は「慶長辛丑年（六年）ゟ同十七年迄」であり、信阿宅亮撰『弾誓上人絵詞伝』等々に伝える、弾誓が佐渡檀特山の巌窟において阿弥陀如来の授記を受け、十方西清王法国光明満正弾誓阿弥陀仏の称号と最極大事である念仏往生の奥儀を直授されたのは慶長二年十月十五日のことであるから、慶長二年四月弾誓飯田来錫説には無理がある。弾誓一流において慶長二年十月十五日は紛うことのない聖記念日であって、弾誓を開山上人と仰ぐ浄土門寺院の緇衆がこれを知らぬはずはなく、とすれば忍誉詠西の単なる誤写ということになる。しかしまたこの弾誓上人慶長二年佛性山阿弥陀寺開山説は、文久二年（一八六二）の弾誓歿後二百五十回遠忌に際して書かれた『弾誓上人略縁起』（写一巻）をはじめ、明治三十年（一八九七）頃に東京精行社から印行された『長野県信濃国下伊那郡上飯田村浄土宗阿弥陀寺境内之図』に添えられた十六世然誉上人梅枝信成稿の「畧縁起」等々にまで受け継がれているから、当寺内においてはこの所伝を踏襲する事情があったように思われる。

おそらく弾誓上人が風越山麓尻無沢に建てたのは山号寺号とてない念仏道場としての小庵であったはずで、そのころ弾誓は『伊那郡神社仏閣記』（「新編信濃叢書」第十四巻所収）に伝えるように、ただ単に「歸命山木食」と称されていたのであり、諸書口碑にいうように弾誓入庵以後ここが阿弥

陀沢と呼ばれるようになったというのは在地住民の弾誓への帰依の高まりをよく示している。小庵念仏道場が発展し佛性山阿弥陀寺を称するようになったのは、三世称誉上人寂西宗覚和尚が小庵を現在地に移して以後のことであったと思われる。

佛性山阿弥陀寺に襲蔵される弾誓関係資料は先代住職宮澤一成師と現住職宮澤徹成師によってきわめて丁寧に整理保管されていて、その概要は宮澤一成師編『足あと［一］阿弥陀寺史』（二〇一三年十一月、佛性山阿弥陀寺刊）にまとめられている。このたび紹介する紙本着色掛幅絵伝一幅には作品名の記載はないが、当寺ではこれを『弾誓上人絵詞伝』と称している。堅牢豪華な装丁が施された大幅で、本紙は縦約一二五糎・横約一一五糎、掛幅全体は縦約二一〇糎・横約一九〇糎もあり、相応の重量もあって容易に掛け難く、全体像の俯瞰把握に困難を生ずる。本紙には三十の絵場面がきちんと齣割りされて描かれ、各絵場面にはそれぞれ金泥で短文の説明が記されている。また掛幅左端に「文久二壬戌星開山上人二百五十回遠忌當山十四主進誉上人代執行」と金泥で記され、三十齣目の画中に「寄附／嵜城朱雀園／国川謹寫（朱角印）」と絵師名の署名あり、さらに掛幅裏面に「寄附　嵜城玄衞／阿弥陀寺十四主進譽成全代」の墨書書付が添付されている。こうした書付類からこの掛幅絵伝が文久二年の開山弾誓上人二百五十回遠忌に際して製作され、法要には参会の衆庶に絵解されたであろうと推量されるが、絵師の嵜城朱雀園国川玄衞については知るところがなく、遠忌法要を執行した十四世進誉成全上人についても、その墓碑に「精蓮社進譽上人忍阿檀式成全大和尚（当山十四世）」とあるほかは資料を失っている。

なお絵場面二十五齣目に「阿弥陀沢閑居の頃土中より地蔵尊出現の圖」が描かれている。この絵場面は他掛幅絵伝諸本にはなく、佛性山阿弥陀寺本独自の場面であるが、当寺蔵『岩屋地蔵尊略縁記』（写一巻）によれば、弾誓上人が阿弥陀沢閑居の折に土中から掘り出した地蔵尊は、弘法大師が延暦十九年二十七歳のとき爪彫りし、心願あって土中に埋め置いたものであった。これを数度の来迎の告を受けた弾誓上人が掘り出したのであるが、その後当山二世木食閑唱上人信順和尚（寛永十八年〈一六四一〉六月十五日歿、寿七十一）が岩屋を設えてこの地蔵を奥院として祀り、さらに三世称誉上人寂西宗覚和尚（慶安二年〈一六四九〉四月二十一日歿、寿六十八）が現在地に移して岩屋地蔵尊と称して祀ったのだという。こうした所伝をこの絵場面はその背後に含んでいる。なおこの地蔵尊は現在地佛性山阿弥陀寺境内岩屋堂内に現存する。

※

絵巻装の弾誓伝としては神奈川県足柄下郡箱根町塔之沢所在阿育王山放光明律院阿弥陀寺蔵絵巻三巻（原本無題。通称「塔之峰阿弥陀寺本弾誓伝」）・同県伊勢原市日向所在無常山浄発願寺蔵絵巻三巻（原本無題。通称「一ノ沢浄発願寺本弾誓伝」）・長野県諏訪市岡村所在桑原山正願寺蔵『弾誓上人絵縁起』三巻（諏訪市上諏訪唐沢所在法国山阿弥陀寺旧蔵。未見）が知られる。右三本はいずれも紙本着色絵巻三巻であるが、宮島コレクション蔵絵巻は上下二巻で中巻を欠く。上下巻とも縦約四〇糎、長さ上巻約九二五〇糎・下巻約八四〇糎。改装の痕跡があり、題簽紙はあるが記載がないのでここでは『弾誓上人白描絵巻』と仮称する。上巻に十二、下巻に十三の絵場面があり、各絵場面右上には画題詞が書き込まれている。この画題詞は「塔之峰阿弥陀寺本弾誓伝」及び「一ノ沢浄発願寺本弾誓伝」の各絵場面に添えられた詞書の始めと終わりの字句を抄出したものである。以下にそれを比較一覧する。塔之峰阿弥陀寺本（箱）は『箱根町誌』第三巻（一九八四年三月、箱根町）・脇坂淳氏「塔の峰阿弥陀寺本について」（『三浦古文化』十一号、一九七二年三月）所載の、一ノ沢浄発願寺本（浄）は『伊勢原市内社寺縁起集』（一九七三年三月、伊勢原市教育委員会）所載の翻刻文を参考にした。なお絵相及び画題詞と詞書表記を一瞥すると、宮島コレクション蔵『弾誓上人白描絵巻』（宮）の絵相は「塔之峰阿弥陀寺本弾誓伝」に近く、画題詞は「一ノ沢浄発願寺本弾誓伝」の詞書に近いように思われる。一層の考察を期したい。

※

上01

（宮）　……朧にみゆるはかりなりけり

（箱）　……朧に見ゆる計也けり

（浄）　……朧（おほろ）に見ゆる計（はかり）也けり

上02
（宮）おほミや人のならひなれは……有かたくこそおほえける哉
（箱）大宮人の習なれは……有難く社覚えける哉
（浄）大宮人の習なれハ……有難こそ覚えけるかな
上03
（宮）ミやもわら屋もはてしなけれは……すゑたのもしくおほしゐにけり
（箱）宮もわら屋もはてしなけれは……末え頼母しくおほし給にけり
（浄）宮もわら屋もはてしなけれハ……末衛頼母敷おほし居にけり
上04
（宮）そのとしもはやたちて……不思儀なりける事ともなり
（箱）其年もはや立て……不思議也ける事ともなり
（浄）其年もはや立て……不思議也ける事共なり
上05
（宮）いたハしや母うへは……三字の名號怠りなし
（箱）いたわしや母うへは……三字の名号怠りなし
（浄）いたはしや母うへハ……三字の名号 怠なし
上06
（宮）漸とし月かさなりて……たのむ心そ賤のをたまき
（箱）漸年月重りて……頼む心そ賤のをた巻
（浄）漸 年月 重りて……頼心そ賤のをた巻
上07
（宮）月日に関守あらされは……涙なからもたのもしきかな
（箱）月日に関守あらされば……涙なからもたのもしきかな
（浄）月日に関守有らされハ……涙なからもたのもしきかな
上08
（宮）去程に弥釈麿は……普門示現そ有かたき哉
（箱）去程に弥釈麿は……普門示現そ有難き哉
（浄）去程に彌尺丸は……普門示現そ有難哉
上09
（宮）なをしも美濃にとゝまりて……かくやとおもふはかりなりけり
（箱）猶しも美濃に駐りて……角やと思ふ事なりけり
（浄）なをしも美濃に駐りて……角やと思斗也けり
上10
（宮）扨草菴をたちいてゝ…… ふたゝひ見えすなりにける哉
（箱）扨草庵を立出て…… 再ひ見へす成りにける哉
（浄）扨草菴を立出て…… 再見えす成りにけるかな
上11
（宮）漸花洛になりぬれは……すみわたるかな法の玉水
（箱）漸花洛に成りぬれは……済渡るかな法の玉水
（浄）漸 花洛に成りぬれハ…… 澄渡哉法の玉水
上12
（宮）或時に津の國の……各悦ひうせにけるとそ
（箱）或時に津の国の……各悦うせにけるとそ
（浄）（この場面なし）
下01
（宮）……何とかハいはん限りしられす
（箱）……何とかはいはん限りしられす
（浄）……何とかいはん限知られす
下02
（宮）佐州の機縁漸に……幾代にたえぬ利益ならまし
（箱）佐州の機縁漸に……幾代にたえぬ利益ならまし
（浄）佐州の機縁 漸 に……幾代にたえぬ利益ならまし
下03
（宮）其比甲斐に……利益のはしとそ成給ひける
（箱）其頃甲斐に……利益のはしとそ成給ひけり
（浄）其比甲斐に……利益のはしとそ成給けり
下04
（宮）其比武藏に名もたかき……おもはぬ人こそなかりけるとそ
（箱）其頃武蔵藏に名もたかき……おもはぬ人社なかりけるとそ

（浄）其比武藏に名も高……おもはぬ人こそなかりけるとそ

下05
（宮）是より相模にうち越て……阿弥陀寺とこそ成にける哉
（箱）是より相模に打越て……阿弥陀寺となりにける哉
（浄）是より相模にうち越て……阿弥陀寺とこそ成にける哉

下06
（宮）此事普くかくれなく……おもはぬ人こそなかりけれ
（箱）此事普隠なく……思ふ人心にそなりにけり
（浄）此事 普 隠なく……思はぬ人社なかりけり

下07
（宮）ふもとの里の小田原に……有かたかりける事ともなり
（箱）麓の里の小田原に……有難かりける事とも也
（浄）麓の里の小田原に……有難かりける事共也

下08
（宮）おなし國の北山に…… みちひき給ふしるしならまし
（箱）同し国の北山に…… 導き給ふしるしならまし
（浄）同し国の北山に…… 導 給ふ印ならまし

下09
（宮）いとゝたに北の山……拜けるかとそ不思儀なりけれ
（箱）いとゝたに北の山……拝けるこそ不思議也けり
（浄）いとゝたに北の山……拜けるこそ不思儀なりけれ

下10
（宮）此國の輩は……佛の誓ひたのもしき哉
（箱）此国の輩は……佛の誓頼母しきかな
（浄）此國の輩ハ……佛の誓たのもしきかな

下11
（宮）堀江のさとを始として……たえせぬ法と成にけり
（箱）堀江の里を始として……絶せぬ法と成りけり
（浄）堀江のさとを始として……たえせぬ法と社きけ

下12
（宮）是よりも上人は…… 赴き給ふそあはれなりける
（箱）是よりも上人は…… 趣給ふそあわれ也けり
（浄）是よりも上人ハ…… 趣 給ふそあはれ也ける

下13
（宮）去程に上人ハ……有かたくこそ覚えける哉
（箱）去程に上人は……有難こそ覚えけるかな
（浄）去程に上人ハ……有難こそ覚えけるかな

岩屋地蔵尊
（佛性山阿弥陀寺境内）

弾誓上人木像
（佛性山阿弥陀寺蔵）

『弾誓上人絵詞伝』一幅（全図）

（佛性山阿弥陀寺蔵）

『弾誓上人絵詞伝』絵場面（齣割）

	06	05	04	03	02	01
Ⓐ	12	11	10	09	08	07
Ⓑ	18	17	16	15	14	13
Ⓒ	24	23	22	21	20	19
	30 D	29	28	27	26	25

『弾誓上人絵詞伝』絵場面（30 齣）

03. 上人誕生の時白幡二ツ飛來る弥陀の御告にて幼名を弥釈丸と号

02. 古郷尾張に歸り後世の勤の外他事なし／名号を呑と夢見て上人を懐妊す

01. 上人の母堂洛に登り可畏君の御側につかふまつる

06. 九歳の春母に對し出家の志をのへ／自髻を切て名を弾誓と改む

05. 小児七歳の時はからす井に落入弥陀如來／忽來現攝取不捨の綱をたれて引挙給ふ

04. 四歳の時弥陀の三尊小児に現シ／阿弥陀の三字を口すさミ遊ひ給ふ

09. 江州八洲の渡りの橋にて餓鬼道へ／落し女の霊鬼を教化し給ふ

08. 濃州武儀郡の山奥に修行是より／髪鬚を剃らす

07. 濃州塚尾の観音堂に一百日参籠し／観音現し念佛の一行諸行にすくるゝ旨を開所し給へり

12. 海邊にて西方を望念佛し給へハ弥陀／來現し大宝蓮地をたまはる

11. 一の谷至源平の乱妄執を終夜囲向す忠度道盛／敦盛の三鬼あらはれ修羅の炎消て善趣ニ至るとて歓喜去

10. 花洛五条の橋ニ而北に當り佛影あらはる／扨ハ霊地あらんと分入しハ古知谷なり

15. 西方の教主鬼神とあらはれ上人の胸中を見給ふ

14. 佐渡の国相川の市に入水を汲薪を／とり貧しき家に助をなす

13. 記州熊野本宮へ参籠権現より八葉の鏡を戴く

18. 伊勢熊野八幡住吉春日の五社あらはれ脊を／立割九血を出し神道の秘奥を上人に授け給ふ

17. 弥陀如来白骨形と來て如実修行を／はけまし大光明を放ち去給へり

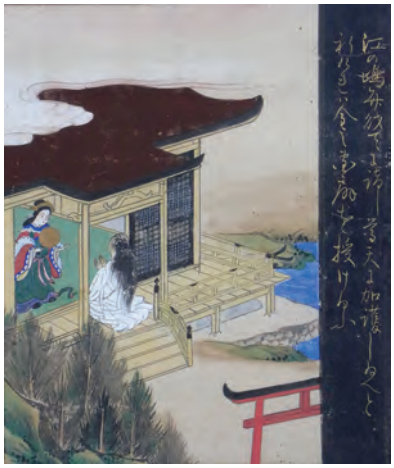
16. 魔道上人に障礙せんと來て却ておそれをなし逃去

21. 相劭塔の峯の巖窟に籠し時領主／大久保氏狩に出られ上人を見てあやシむ處

20. 上人と白道和尚と互に灵夢の告ニ／よつて上人を招請對面の圖

19. 修行の巖窟忽報土と變し十方西清王／法國光明滿正弾誓阿弥陀佛と本師如来の/直授又白蓮所乘の佛頭を授け給ふ

24. 小田原大蓮寺住持以天僧上人の／御髪を下し即坐に往生をとけられける



23. 江の嶋弁戝天に詣し尊天に加護し給へと／祈けれハ金の團扇を授け給ふ

22. 上人の德風益と盛也龍神歸敬し毎夜龍燈を／捧又箱根権現貴女と現し來り血脉を受る

27. 尾州海邊の里に尋入毋堂の石塔に/向ひ皿向し給ふ

26. 相州一の沢に化益の頃数十里隔る塔之峯と／兩山を兼住朝暮通ひ勤行し給ふ事六年

25. 阿弥陀沢閑居の頃土中より地藏尊出現の圖

30. 慶長十八年五月廿五日午の刻
六十二歳にて遷化す

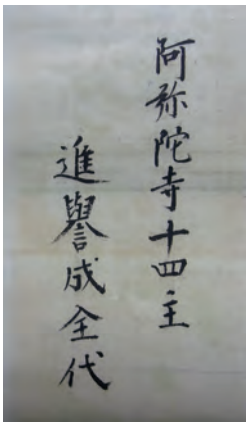
29. 石見の國坂﨑織部正の家中土
井傳藏ゆへ／有て牢獄に入上人
名号の德に依而罪科赦免

28. 文殊菩薩来臨ありて天竺の貝
多羅／葉二枚を授与し給ふ

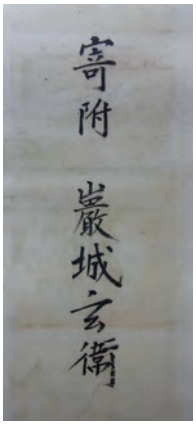
Ⓒ當山十四主進誉上人代執行

Ⓑ開山上人二百五十回遠忌

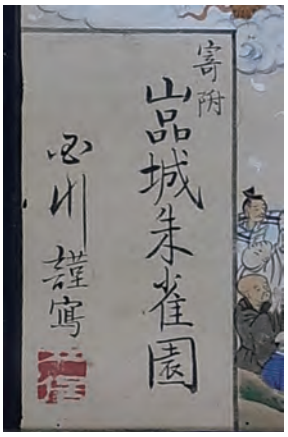
Ⓐ文久二壬戌星



［軸裏］
阿弥陀寺十四主
進譽成全代



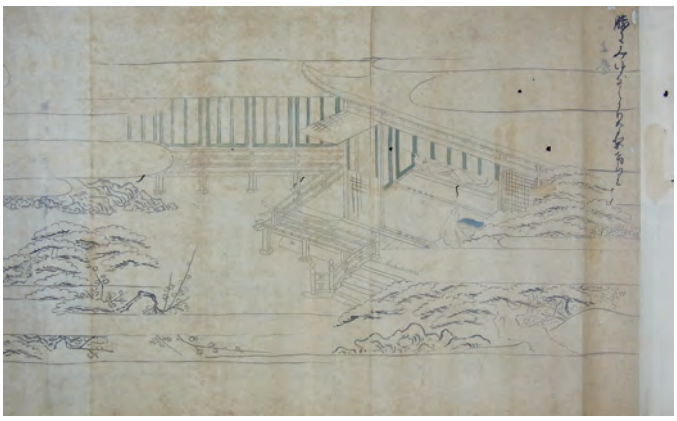
［軸裏］
寄附　巖城玄衛



Ⓓ　寄附
嵒城朱雀園
國川謹寫　朱印

『弾誓上人白描絵巻』二巻　　（宮島コレクション蔵）

上 02. おほミや人のならひなれは
……有かたくこそおほえける哉



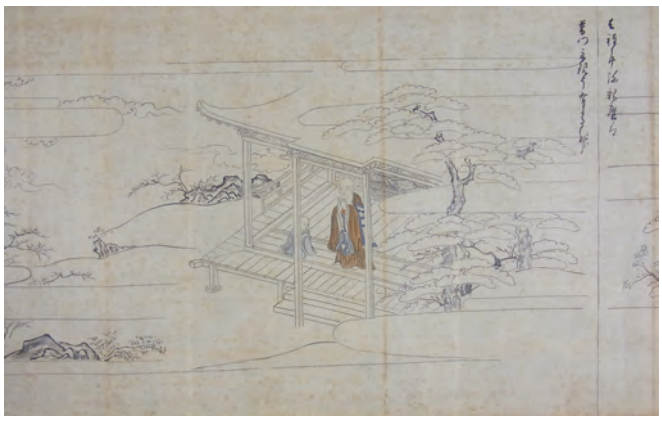
上 01.
……朧にみゆるはかりなりけり

上 04. そのとしもはやたちて
……不思儀なりける事ともなり

上 03. ミやもわら屋もはてしなけれは
……すゑたのもしくおほしゐにけり

上 06. 漸とし月かさなりて
……たのむ心そ賤のをたまき

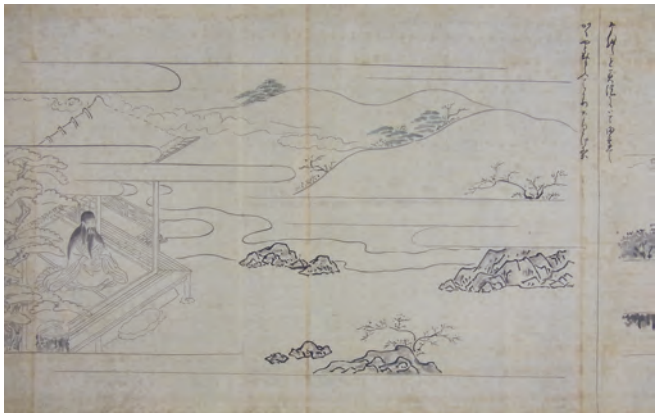
上 05. いたハしや母うへは
……三字の名駘怠りなし



上 08. 去程に弥釈麿は
……普門示現そ有かたき哉

上 07. 月日に関守あらされは
……涙なからもたのもしきかな

上 10. 扨草菴をたちいてゝ
……ふたゝひ見えすなりにける哉

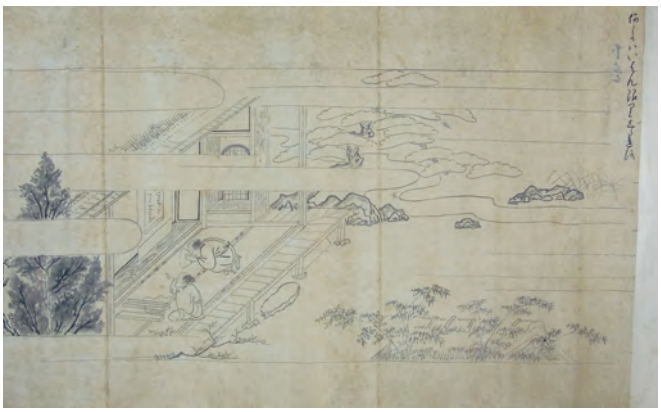


上 09. なをしも美濃にとゝまりて
……かくやとおもふはかりなりけり

上 12. 或時に津の國の
……各悦ひうせにけるとそ

上 11. 漸花洛になりぬれは
……すみわたるかな法の玉水

下 02. 佐州の機縁漸に
……幾代にたえぬ利益ならまし



下 01.
……何とかハいはん限りしられす

下 04. 其比武蔵に名もたかき
……おもはぬ人こそなかりけるとそ

下 03. 其比甲斐に
……利益のはしとそ成給ひける

下 06. 此事普くかくれなく
……おもはぬ人こそなかりけれ

下 05. 是より相模にうち越て
……阿弥陀寺とこそ成にける哉

下 08. おなし國の北山に
……みちひき給ふしるしならまし

下 07. ふもとの里の小田原に
……有かたかりける事ともなり

下 10. 此國の輩は
……佛の誓ひたのもしき哉

下 09. いとゝたに北の山
……拜けるかとそ不思儀なりけれ

下 12. 是よりも上人は
……赴き給ふそあはれなりける

下 11. 堀江のさとを始として
……たえせぬ法と成にけり

上下2巻　題　簽

下13．去程に上人ハ
……有かたくこそ覚えける哉

遺珠拾遺01　「弾誓上人守佛」

『新編武蔵風土記稿』（大日本地誌体系⑨所収。昭和五十六年三月、雄山閣）巻六十五・橘樹郡ハ「眞福寺」条に、弾誓上人の「守佛」という地蔵像についての所伝が載る。

本尊如意輪觀音長八寸木ノ坐像ナリ　覺大師ノ作ナリト云傳フ又子安　命地蔵ヲ安ス坐像ニシテ長六寸作知ラス惣體墨塗ニシテ玉眼ノ像コノ像ハ相州一ノ澤彈誓上人ノ守佛ニシテ靈像ナリ久シク爰ニ安置セシカ寛　三年ノ頃ヨリ　ノ人大ニ崇信シテ屢靈驗ノ聞ヱアリケレハ農民等子孫ノ繁榮ヲ祈ランカタメ一夜ツヽ宿シテ祈念シケリコノコト　ニキコヘテ　キ頃ハ四月ヨリ七月マテノ間ハ江戸ノ中及ヒ　鄕ヲ　リ各一夜ツヽヲ宿シテ後ハ寺ニカヘリ本堂ニ安ス故ニ俗ニ一夜地蔵ト呼リ、

横浜市港北区下田町所在曹洞宗下田山眞福寺は欄室關牛（明暦三年〈一六五七〉歿）の開基、杉窟悦（慶長十七年〈一六一六〉歿）の開山で、かつては駒橋山また願王山とも称した。弾誓上人の守佛だったという木造坐像の地蔵は寛延三年〈一七五〇〉ころから巡地蔵まわり念仏として信仰されはじめ、『新編武蔵風土記稿』編纂の文化文政（一八一〇年起稿、一八三〇年完成）頃には江戸市中の講中にも一夜ずつ経廻ったようである。坐像は全身墨塗だったというが、左掲の御影札（宮島コレクション蔵）にはその面影はない。

（せきぐち　しずお　本学名誉教授）